

出題意図

課題文の内容を正しく読解し、その論旨を正確に把握したうえで、与えられたテーマについての考察が、まとまりある形で表現されているかどうかを評価するものである。

具体的には次のような諸力をはかることを意図している。

- ①読解力：課題文をよく読解し、その論旨を正確に把握しているか
- ②思索力：与えられたテーマについて、十分に考察し、また批判や評価をしているか
- ③表現力：考察した内容を説得力のある文章にまとめているか、誤字や脱字はないか
- ④独創性：広い視野のもとで、独自の視点を提示しているか

〈11月14日実施〉

講評

課題文では、人間が必然的に持つ「確証バイアス」が「エコーチェンバー」現象によって無自覚に必要以上に強化されているが、これが進むと、物事を多角的に捉える必要性さえ感じない人が増え危険である、と述べられている。

問1は、「著者の考えを300字以内で要約しなさい」という設問である。要約のポイントは以下の3点である。

(1) 膨大な情報の中で生きている人間は、無意識に情報を取捨選択しており、その際には自分の信念に合う情報だけを集める「確証バイアス」が働いている。

(2) インターネットのアルゴリズムはこの傾向を強化し、「エコーチェンバー」現象を引き起こす。結果として多様な視点を失い、偏った思い込みが社会に広がる危険がある。

(3) 人間はバイアスから逃れられないが、それを過度に増幅させるような仕組みには注意が必要である。

問2は、「著者の考えに対するあなたの意見を500字以内で述べなさい」という設問である。自分の意見を述べる際には、著者の考えを踏まえて論じること、また論理的・客観的な意見として述べるのが重要である。したがって、著者の考えを受けていないもの、自分の個人的な体験だけを単純な根拠として結論を出すものなどは、評価されないので注意が必要である。以下の3点がポイントとなる。

- (1) 著者の考えのうち、どのような箇所に着目したかを明確に記述する。
- (2) 着目点を明示した上で、自分の意見を論理的に展開する。
- (3) 自分の意見の説得力を高めるために客観性のある事例を挙げる。

<出典>今井むつみ『人生の大問題と正しく向き合うための認知心理学』日経プレミアシリーズ、2025

〈11月15日実施〉

講評

課題文では、「人情」という日本人的な感情は、国際的な交流においても人間性として通じる大切なものであるのに、近年、日本では軽視される傾向にあり、そのことで人の心を動かす力が失われていくのではないかと述べられている。

問1は、「著者の考えを300字以内で要約しなさい」という設問である。要約のポイントは以下の3点である。

(1) 「人情」は日本人的な感情として嫌われることもあるが、国際的な場であっても人を動かすものは最終的には人間性であり、人情こそは万国共通の大切なものである。

(2) その人情が日本人の中で薄れてきているが、国際性とは人情のような日本的なものを捨てるのではなく、自分たちの言葉や心をはっきりさせることが必要である。

(3) 日本が豊かになって、カネやモノで押し通していくことで、本当に相手の心を動かす力を失っていくのではないかと。

問2は、「著者の考えに対するあなたの意見を500字以内で述べなさい」という設問である。自分の意見を述べる際には、著者の考えを踏まえて論じること、また論理的・客観的な意見として述べるのが重要である。したがって、著者の考えを受けていないもの、自分の個人的な体験だけを単純な根拠として結論を出すものなどは、評価されないので注意が必要である。以下の3点がポイントとなる。

- (1) 著者の考えのうち、どのような箇所に着目したかを明確に記述する。
- (2) 着目点を明示した上で、自分の意見を論理的に展開する。
- (3) 自分の意見の説得力を高めるために客観性のある事例を挙げる。

<出典>平山郁夫『絵と心』中央公論新社、2008

〈11月16日実施〉

講評

課題文では、「弱さ」や「依存」について、一般的に思われていることとは反対に、弱いロボットはその「弱さ」ゆえに多くのことを為すことができるのであり、自立とは多くの人や物に「依存」できることである、と述べられている。

問1は、「著者の考えを300字以内で要約しなさい」という設問である。要約のポイントは以下の3点である。

- (1) 人の力を借りなければならない「弱いロボット」には「他者を巻き込む力」があり、その源泉は彼自身の中では行為が完結しないという「弱さ」にある。
- (2) 熊谷晋一郎さんは「依存先が一つしかない」ことの危険性から、「多くの人や物に依存できることが自立の条件」であり、多くのものに依存しているのに「何にも依存していない」と感じられる状態こそが“自立”なのだと言う。
- (3) 「依存症」とは依存先が極めて少ない状態であり、健康な人は多くの依存先を持っている。

問2は、「著者の考えに対するあなたの意見を500字以内で述べなさい」という設問である。自分の意見を述べる際には、著者の考えを踏まえて論じること、また論理的・客観的な意見として述べるのが重要である。したがって、著者の考えを受けていないもの、自分の個人的な体験だけを単純な根拠として結論を出すものなどは、評価されないので注意が必要である。以下の3点がポイントとなる。

- (1) 著者の考えのうち、どのような箇所に着目したかを明確に記述する。
- (2) 着目点を明示した上で、自分の意見を論理的に展開する。
- (3) 自分の意見の説得力を高めるために客観性のある事例を挙げる。

〈出典〉白石正明『ケアと編集』岩波新書、2025

受験生へのアドバイス

小論文対策としては、日頃から「読んで書く」という習慣の繰り返ししかない。

「読む」とは、他人の文章の真意と意図を理解することである。著者は何に対して賛成しており、何に対して反対しているのかを見抜く。読書するときには、次の展開や次の言葉を推測しながら読む訓練をしよう。

「書く」とは、自分の語彙を使って読み手を説得する論理的な文章を組み立てることである。的確に書くための語彙や、論の根拠とする客観性のある事例も、読むことなしには身につかない。意味が曖昧な語、書けない漢字は、億劫がらずに辞書を引こう。

読まなければ書けない。しかし読んだだけで書かなければ、書けるようにはならない。他者に伝わる文章を書くためには、例えば「要約と自分の考え」を書いて、他の人に直してもらうことをすすめる。

小論文型入試は、対策をしっかりと講じれば短期間で大きな効果が現れる。繰り返し練習すれば、必ず上達するので、がんばってほしい。

出題意図

基礎能力試験型は、マークシート方式を採用しており、英語の基礎的な知識と読解力を確認することをねらいとしている。出題者が受験生に求めているのは主として次の点である。

- ①基本的な英文法・英単語・熟語をマスターしていること。
- ②語句の意味・用法と文法を正確に踏まえ、英文を総合的に理解できること。
- ③英会話に親しみ、会話の流れを理解できること。

〈11月14日実施〉

講評

① 長文総合問題。英文要旨：アラブ首長国連邦の首都アブダビでは交通渋滞が大きな問題となっているが、アブダビ郊外に造られたマスダール・シティではこの問題を解決するためのいろいろな方策が試されている。

設問1 下線部の語の意味を選択する問題。(1) benefitは「恩恵」という意味。(2) projectは「予測する、予定する」という意味の動詞で、最も近いのはア。

設問2 第1パラグラフの3～4行目にウの内容が書かれている。

設問3 第2パラグラフの2～3行目にアの内容が書かれている。

設問4 空所補充問題。空所Aには「陰」を意味するshadeが入る。空所Bには「～をつなぐ」という意味のconnectが入る。connect A to Bで「AをBとつなぐ」という意味になる。空所Cには「実際は」という意味のin realityが入る。

設問5 第3パラグラフの3～5行目にイの内容が書かれている。

設問6 第4パラグラフの最初の文にアの内容が書かれている。

設問7 第3パラグラフの4～8行目に、マスダール・シティではPRTという新しい交通システムが計画され、当初は3000台が稼働する予定だったが、実際は13台しか稼働していない、ということが書かれている。正答はウ。

② 会話文の問題。IreneとYutoが、リモートワークの是非について話している。

設問1 下線部の語の意味を選択する問題。(1) question sheetは「質問票」。正答はウ。(2) argueは「主張する」という意味の動詞。正答はイ。(4) apartは「離れて」。keep ~ apartで「～を離しておく」という意味になる。正答はイ。

設問2 空所補充問題。空所Aでは、Ireneが、アンケートをもうやったかとYutoに尋ねた理由を述べることが求められている。正答はア。空所Bは、その後が続く言葉から、リモートワークが従業員のコミュニケーションに関してはよくない面があるという趣旨のことが述べられていることが予想できる。正答はア。空所Cは、その前のIreneの問いかけに対する適切な応答を選ぶ。正答はイ。

設問3 下線部(3)のsavesは「～を節約する、～を不要にする」という意味の動詞。正答はア。イは「～を救う」。ウは「相手の得点を防ぐこと」。

設問4 23～25行目で、自宅に仕事用の場所を設けているというIreneに対し、Yutoはそれをいい考えだと述べている。正答はウ。

設問5 26～27行目にアの内容が書かれている。

③ 短文空所補充問題。単語、熟語の適切な用法を選びとる能力が問われる。1. deal withで「～を処理する」という意味になる。正答はウ。2. 「もし～ならば」という意味のifが入る。give up onは「～に見切りをつける」。3. 正答はイ。detectは「～を見つける」という意味の動詞。fixは「～を修理する、～を修正する」。4. 正答はア。graduallyは「だんだんと」。5. burst intoで「突然～し始める」という意味になる。正答はイ。6. 正答はウ。現時点での何らかの兆候に基づいて未来のことを述べるときには、willではなくbe going toを用いる方が適当である。7. anything butで「少しも～でない」という意味になる。正答はア。8. principalは「校長」。正答はエ。

④ 並べかえの問題。1. matterは「重要である」という意味の動詞。「私にとって最も重要なこと」はwhat matters most to meとなる。2. shouldn't have + 過去分詞は「～するべきではなかったのに (実際はしてしまった)」という、過去の行動に対する非難や後悔を表す表現。3. turn out to beで「～であることがわかる」という意味になる。

〈11月15日実施〉

講評

① 長文総合問題。英文要旨：技術の発達により、障がい者スポーツに使用される優れた器具が開発されており、障がい者にとってスポーツは以前より親しみやすいものになってきている。また、そうした器具の試作品が発表される競技会も毎年行われている。

設問1 空所補充問題。空所Aには「～に参加する」という意味のparticipatesが入る。空所Bには「機会」という意味のopportunitiesが入る。空所Cには「独力で」という意味のon your ownが入る。

設問2 Chelsea McClammerが世界的レベルのアスリートであることは第1パラグラフに述べられているが、Roy Tuscanyについては、世界的レベルのアスリートであるとは書かれていない。

設問3 下線部の語の意味を選択する問題。(1) adaptedは「適合させられた」という意味。最も近いのはア。(2) take placeは「行われる、開催される」という意味。最も近いのはア。

設問4 第3パラグラフの5～7行目にイの内容が書かれている。

設問5 第4パラグラフにアの内容が書かれている。

設問6 第5パラグラフの6行目で、Cybathlonの競技がスポーツのように見えないかもしれないと述べられている。正答はウ。

設問7 正答はウ。第5パラグラフで、スポーツだけでなく日常生活のための障がい者支援の技術も進歩してきていることが述べられている。また、Cybathlonでは義手で服をつるしたりサンドウィッチを作ったりする競技が行われていることも述べられている。

② 会話文の問題。KeikoとPatrickが、日本人の時間に対する感覚について話している。

設問1 空所補充問題。空所Aは、Misaとの最初のデートがどうだったかをPatrickが答えている箇所。その後を読むと、Patrickが遅刻して、Misaが機嫌を損ねたと書かれていることから、デートはあまりうまく行かなかったことが分かる。正答はア。空所Bは、日本人は時間を厳しく守るように育てられているというKeikoに、Patrickが反発している箇所。正答はイ。空所Cでは、その後続く言葉から、Patrickが日本人は時間を厳守するということをいったん受け入れていることが推測できる。正答はア。

設問2 下線部の語の意味を選択する問題。(1) upsetは「腹を立てている」という意味の形容詞。正答はウ。(2) strictは「厳格な」という意味の形容詞。正答はア。(4) shameは「残念なこと」。正答はイ。

設問3 下線部(3)のonceは「かつて」という意味の副詞。正答はイ。アは「一度」。ウは「いったん～すると」。

設問4 8～9行目で、Keikoは日本人が小さいころから時間を守るよう教えられていると述べている。正答はイ。

設問5 日本人は始まりの時間は厳守するのに終わりの時間は守らないというPatrickに、Keikoは24行目で、そのことについて一緒に上司に話に行くことを提案している。正答はイ。

③ 短文空所補充問題。単語、熟語の適切な用法を選びとる能力が問われる。1. can't have+過去分詞で「～したはずがない」という意味になる。正答はイ。2. 接続詞などの、節と節をつなぐ言葉がないので、分詞構文を使う。正答はイ。3. visitingの目的語となる関係代名詞を選ぶ。正答はウ。4. future trends(将来の傾向)を目的語としてとるのに適当な動詞を選ぶ。正答はイ。5. 正答はエ。stableは「安定した」。recessionは「不景気」。6. 時や条件を表す接続詞に続く節では、未来のことであってもwillを用いず現在形を使う。正答はイ。7. 正答はア。appetiteは「食欲」。8. refrain from～ingは「～することを慎む」。正答はイ。

④ 並べかえの問題。1. have the notion thatで「～という考えを持つ」という意味になる。2. the last person to doで「最も～しそうでない人」という意味になる。3. praise A for Bで「BのことでAをほめる」という意味になる。

〈11月16日実施〉

講評

① 長文総合問題。英文要旨：夢は創造的な作業や学習に役に立つのかについて研究が行われているが、誰もが納得する結論はまだ出ていない。

設問1 下線部の語の意味を選択する問題。(1) are facingは「～に直面している」。正答はア。(2) standing stillは「じっとしている」という意味。正答はイ。

設問3 空所補充問題。空所Aは、夢が日常生活で役に立った例を述べている箇所。正答はア。空所Bは適切な動詞を選ぶ。空所Bを含む文に続く箇所では、夢が役に立たないという意見が述べられていることから考える。正答は「～を疑う」という意味のア。空所Cには「秘密」という意味のウが入る。アは「選択肢」、イは「うわさ」という意味で、空所Cに入れても意味が通る文にならない。

設問5 第3パラグラフに、夢が役に立つかどうかについて科学者の中で意見が分かれていることが述べられている。正答はウ。

設問7 1行目のsleep onは「～を一晩寝て考える」という意味。

② 会話文の問題。AoiとNateが、卒業旅行の行き先を海外にするか国内にするかについて話している。

設問1 下線部の語の意味を選択する問題。(1) discussingは「～について話し合っている」。正答はウ。(3) cautiousは「用心深い」という意味の形容詞。正答はア。(4) fortunateは「幸運な」という意味の形容詞。正答はウ。

設問2 空所補充問題。空所Aは、卒業旅行で海外に行きたいというAoiに、Nateが国内旅行も魅力的だと述べている箇所。正答はア。空所Bは、Nateが自分の国でも海外旅行に興味のない若者が多いのはインターネットが要因かもしれないと述べている箇所。正答はウ。空所Cは、その前後でのNateの発言から考える。Nateは「自分の視野を広げるために海外に行く必要はないと思う」とか「行き先はどこであれ、友人と一緒に楽しんで思い出を作ることが重要だ」と述べている。正答はイ。

設問3 下線部(2)のissueは「問題」という意味の名詞。正答はウ。アは(雑誌、新聞などの)号。イは「～を発表する」という意味の動詞。

設問4 14行目の発言から、アが正答となる。

設問5 9行目の発言から、イが正答となる。

③ 短文空所補充問題。単語、熟語の適切な用法を選びとる能力が問われる。1. 正答はイ。containは「～を含む」。2. her husbandを先行詞とする継続用法の関係代名詞が入る。この関係代名詞は、I thoughtをはさんで、was over 20 years older than herの主語となるので、主格のwhoが正答。3. 「たとえ～でも」という意味のエが正答。sports dayは「運動会」。4. 「成熟した」という意味のイが正答。5. 正答はイ。cut down onは「～を削減する」という意味。paperworkは「事務作業」。6. 「～しなければならなかった」という意味のウが正答。7. experiment(実験)を行う場所である「実験室」という意味のイが正答。8. 「～を邪魔する」という意味のウが正答。I didn't mean to disturb you.は「あなたの邪魔をするつもりはなかった」という意味。

④ 並べかえの問題。1. put A into practiceで「Aを実行する」という意味になる。2. never ... without ~で「～なしで…することはない」「…すれば必ず～する」という意味になる。3. woke upの後に、その結果どうなったかを表す不定詞が続く。find oneself ~ingで「自分が～していることに気づく」という意味になる。

受験生へのアドバイス

出題者が受験生に求めているのは、オーソドックスな学習の成果であり、高校のリーディングの教科書がきちんと理解できる力がついていれば解ける問題であると考えている。

ただし、「きちんと」理解できることが重要であり、「なんとなくわかる」というレベルでとどまらないようにしてほしい。基本的な単語・熟語の習得はもちろんのこと、英文の構造をしっかり把握して、一つ一つを論理的に正確に理解していくことが、外国語学習においては特に重要である。

出題意図

高等学校で学習する内容を基盤とし、大学での学びに必要な知識問題、及び文章内容を理解する基礎的な力があるかどうかを確認するための問題となっている。解答形式はすべて選択式である。具体的には、大問1においては語彙力を問う問題10問、大問2においては文章読解力を問う問題15問、合計25問を出題している。

大問2は、4000字あまりの説明的な内容をもつ文章を課題文としているが、著者の論述に従いながら、各段落の意図を把握しつつ、その理解が文章全体にまでひろげられるか、また自身が読み取ったことをもとに、問われていることについて適切な解答を導き出せるかを重視している。その過程において、漢字を読み書きする力や基本的な語句の意味、慣用句の知識なども必要になってくる。

〈11月14日実施〉

講評

大問1は、言葉の意味を問う問題、漢字の二字熟語の類義語・対義語・組み立てを問う問題、慣用表現の意味を問う問題、四字熟語を完成させる問題、四字熟語の意味を問う問題、助詞の意味・用法を問う問題からなる。いずれも基本的な知識を問うものである。

大問2は岡田暁生氏の「音楽論は文明論たりうるか?—「教養」の実用性について考える」から出題した。冒頭、著者は「芸術＝遊び」というイメージが強く、なかでも音楽については、「音楽なんて研究対象になるんですか?」と問われることが多いと述べる。これが、この文章の軸となる問いである。まず、これについて、著者は、文学や美術と比べて音楽が無用だと思われるとすれば、それは非表象性にあるのだらうと推測し、だが、音楽はその非表象性ゆえに、時代の空気をいち早く、鋭く反映することがあるのだと述べていく。そしてその主張に沿って、ベートーヴェンや癒しの音楽などの例を挙げ、音楽は「生きること」との結びきならない結びつきを持っていると主張する。読解のポイントは、この文章の軸となっている主張を読み取り、それぞれの実例が、著者の主張とどのように結びついているかを理解することにある。

〈11月15日実施〉

講評

大問1は、言葉の意味を問う問題、漢字の二字熟語の類義語・対義語・組み立てを問う問題、慣用表現の意味を問う問題、四字熟語を完成させる問題、四字熟語の意味を問う問題、助詞の意味・用法を問う問題からなる。いずれも基本的な知識を問うものである。

大問2は猪熊葉子氏の『大人に贈る子どもの文学』から出題した。この文章は、軸となる問いが、冒頭にわかりやすくは提示されていない。だが、よく読めば冒頭に挙げられている引用文などから、フィクションとしての「物語」に、どのような意味、意義があるか?という問いについて述べていることがわかる。著者はこの問いにしたがって、神話、昔話、伝説がそれぞれどういうものであるか、あるいは近代に「小説」が出てきたことにより、「物語」がどう評価されるようになったのかなどのトピックについて述べていく。まずはこうしたトピックを、きちんと整理して読み取ることが必要である。そのうえで、「物語」の「文学的価値」をどう評価すべきか?という問いに対する著者の主張(結論として、著者は、読者をその世界に引き込み、とどめておくことができたならそれは価値であると述べている)をしっかりと理解することが重要である。

〈11月16日実施〉

講評

大問1は、言葉の意味を問う問題、漢字の二字熟語の類義語・対義語・組み立てを問う問題、慣用表現の意味を問う問題、四字熟語を完成させる問題、四字熟語の意味を問う問題、助詞の意味・用法を問う問題からなる。いずれも基本的な知識を問うものである。

大問2は三好由紀彦氏の『哲学のメガネ』から出題した。この文章では、まず古代の人々が、海の果は断崖絶壁でそこから海水が流れ落ちていると考えていたことを述べる。そしてその発想が、雨がふると瓶から水があふれる、といった身近な場面の観察から生まれたことを説明する。ここから、自分たちのわかる範囲の現象を、拡大して世界を理解するという世界の把握方法が提示されていることに気づかなくてはならない。この文章は、どのようにして世界を把握するか、ということの問題にしているのだ。著者はそのうえで、現在、われわれが宇宙の果てをどのように理解しているのか説明していく。じつは、技術の差はあれども、自分たちが観察できる範囲の現象を拡大して推量するという点では、古代人と変わりがないのだ。そうした論理の流れをしっかりと読み取れているのが読解のポイントとなる。

受験生へのアドバイス

大問1については、基礎的な国語知識が問われるため、日頃から言葉の意味に関心をもって、類義語や対義語、慣用句や四字熟語、漢字熟語の構造などの知識を増やしてほしい。

大問2に関しては、さまざまな種類の説明的な文章(論説文)を読んで慣れることが大切である。論説文は一見読みにくく感じられるかもしれないが、必ずテーマとそれを説明するための例で成り立っている。だからテーマをたどれば必ず著者の主張を知ることができ、その主張を補強するために紹介されるさまざまな例の意味も理解することができる。一見難解に感じられるかもしれないが、論説文の文章は筋道から外れることはなく、また書かれていないことが出題されることもない。さらに、難しいところには必ず著者の解説が付されている。

第一印象にとらわれることなく、根気強くいろいろな文章を読んで慣れていってほしい。大学での学びにおいて、論説文を読みこなすことは、必要不可欠の基礎力である。新聞や新書、現代文の問題集など、より多くの論説文を読むようにしてほしい。